

教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和4年度事業)

令和5年11月

印西市教育委員会

目 次

1	点検評価について	1 頁
	(1) 趣旨	2 頁
	(2) 点検評価の対象	2 頁
	(3) 点検評価の方法	2 頁
	(4) 点検評価結果の構成	3 頁
2	印西市の教育施策	4 頁
	(1) 教育施策の基本理念	5 頁
	(2) 基本目標	6 頁
	(3) 教育施策の体系	9 頁
3	点検評価結果	10 頁
	(1) 点検評価結果目次	11 頁
4	評価のまとめ	37 頁
	(1) 評価内訳	38 頁
	(2) 基本目標別評価	41 頁
	(3) 学識経験者の知見の活用	42 頁

1 点検評価について

(1) 趣旨

市教育委員会では、平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、毎年、教育行政事務の管理執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表しています。昨年度は、令和3年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、各分野の学識経験者の皆様よりご意見をいただき、報告書を取りまとめ、公表しました。この「内部点検評価」の作業及びいただいたご意見を参考にすることで、令和4年度中に施策の進捗状況を再確認し、効果的な施策の展開に寄与することができたと考えております。

今年度も令和4年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、報告書に取りまとめました。これを公表し、市民の皆様からご意見をいただき、よりよい教育の実現に向けて、取り組みを進めてまいりたいと考えております。

(2) 点検評価の対象

点検評価の対象は、令和4年度の「印西市の教育施策」（以下「教育施策」という。）における事業の実施内容とします。

(3) 点検評価の方法

点検評価の方法は、教育施策中の「事業」毎に、令和4年度に実施した実施内容及び実績を明らかにし、内部評価を客観的に行うものとします。

また、事業の評価をもとに今後の施策の方向性を検討することとします。

なお、法律に明記されている「学識経験を有する者の知見の活用」については、「印西市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価実施要綱」を定め、学校教育、生涯学習、それぞれの分野の学識経験を有する方を「印西市教育委員会点検評価委員」（以下「点検評価委員」という。）として委嘱しご意見をいただくこととします。

(点検評価の流れ)

○事業点検…「事業」毎の事業内容点検、今後の施策の方向性の検討
(点検者：担当課長)

↓

○施策評価…「事業」毎の評価、今後の施策の方向性の確認
(評価者：教育長、部長、点検評価委員)

↓

○総合評価…教育委員会会議における最終評価（評価者：教育委員）

(4) 点検評価結果の構成

教育施策中の「基本目標」毎の「主な取組」における「事業内容」を，令和4年度に実施すべき事業目標と位置付け，この実施状況について点検を行い，「事業」毎に内部評価しています。また，「主な取組」ごとに今後の施策の方向性を検討し，記載しています。

表の項目について

○事業……「主な取組」ごとに掲げている事業です。

○事業内容（令和4年度目標）……事業の具体的内容です。教育施策は，当該年度の事業計画書であり，教育施策中の「主な取組」における「事業内容」は，実施すべき具体的事業内容であることから，令和4年度目標と位置付けています。

○令和4年度実績……令和4年度目標に対し，実際に実施した事業の内容，回数などを具体的に記載しています。

○事業評価……事業の進捗を点検し，印西市教育委員会が内部評価しました。評価指標は「S，A，B，C」の四段階評価とし，以下の内容を基準としています。

S 事業の目標が達成され，計画以上の施策の進捗が認められる。

A 事業の目標が概ね達成され，施策の進捗が認められる。

B 目標の一部が達成できなかった。

C 未達成事業が多く，施策の進捗がほとんど認められない。

○今後の施策の方向性……事業評価を踏まえた今後の施策の方向性を記載しています。

《参考》地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和31年6月30日法律第162号〕

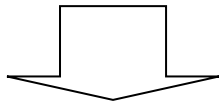
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は，毎年，その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い，その結果に関する報告書を作成し，これを議会に提出するとともに，公表しなければならない。

2 教育委員会は，前項の点検及び評価を行うに当たっては，教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 印西市の教育施策

印西市教育大綱



印西市教育振興基本計画

将来都市像

住みよさ実感都市
ずっと このまち いんざいで

教育施策

教育の基本理念【だれもが輝き ともにばたく いんざいの学び】

- 基本方針1 学校・家庭・地域が連携強化し、未来を拓く子どもを育む教育の推進
- 基本方針2 市民が学びあい・活かしあい・地域に誇りと愛着が持てる学びの推進
- 基本方針3 すべての市民の健やかな心と体を育む学びの推進

基本目標・主な取組

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

- 1 子どもたちの学ぶ力を育む
- 2 子どもたちの豊かな心を育む
- 3 子どもたちの健やかな体を育む

II. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる〔教育環境〕

- 1 教育環境整備の充実
- 2 学校の適正規模・適正配置の推進
- 3 情報化社会に対応した教育の推進
- 4 信頼される学校づくり

III. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する〔文化・芸術〕

- 1 文化・芸術活動の推進
- 2 文化財の保護・活用の推進
- 3 市史編さん事業や地域史料の保存

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる〔生涯学習・青少年健全育成〕

- 1 多様な学習機会の提供
- 2 図書館サービスの充実
- 3 生涯学習施設の整備・充実
- 4 家庭と地域の教育力向上と青少年の健全育成

(基本目標Ⅰ)

知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち
未来を拓く子どもを育む 〔学校教育〕

変化の激しい社会を生き抜くために必要な生きる力の育成に向け、「学ぶ力・豊かな心・健やかな体」をバランスよく育むとともに、自らの能力を引き出し、習得したことを活用して、様々な課題に対し主体的に解決できる児童生徒を育成する必要がある。

「学ぶ力」の育成として学力の向上を中心にすえ、児童生徒の個性を伸ばす教育を推進し、言語能力や情報活用能力、英語教育や特別支援教育、幼児教育など現代的な諸課題に求められる資質・能力の育成に努める。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、職員研修の充実と指導方法の工夫改善を図る。

「豊かな心」の育成として道徳科を要とし、「考え、議論する道徳」への転換を図るとともに、音楽活動や芸能鑑賞、体験活動を通して豊かな情操を育む。また、児童生徒個々の心身の発達や特性に即した児童生徒理解と教育相談を充実させ、いじめや不登校などへのきめ細かな支援と組織的な対応に努める。

「健やかな体」の育成として体育授業の充実や部活動支援により、児童生徒の体力の向上を図る。また、健康診断や保健指導を実施し、学校環境衛生の改善に努めるとともに、食に関する指導を推進し、安全安心で栄養バランスのとれた給食を提供する。

(基本目標Ⅱ)

子どもたちが安全で安心できる生活を送り、健やかに
成長できるよう、教育環境を充実させる 〔教育環境〕

小中学校の施設等については、校舎などの老朽化が進行している状況にあり、施設の改修や、学級増に伴う教室等の増築・学校給食センターの安定稼働など、学校の施設や設備の計画的な修繕、改修が必要となっている。

また、教育格差を生じさせないための就学支援や学校の適切な配置、情報活用能力を高める教育としてのICT環境の整備、安全で安心に過ごせる信頼される学校づくりなども対応が求められている。

このことから、子どもたちが安全で安心できる学校生活を送り、健やかな成長を支えるための教育環境づくりとして、学校施設や学校給食センターの整備及び就学援助の実施、学校の適正規模・適正配置や安全教育の充実、地域と連携した開かれた学校づくりや情報化社会に対応した教育の推進などを図っていく。

(基本目標Ⅲ)

市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する

〔文化・芸術〕

文化・芸術活動については、市民の感性を高め、本市に住むことに誇りと愛着が持てるように文化・芸術活動を推進することが求められている。

また、文化財の保護・活用については、本市に残る有数の貴重な文化財等を耕世に伝えるため、調査研究を行うとともに公開・活用を継続し、生涯学習や他の事業とも連携し後世に伝えていくことが課題となっている。

併せて市民が市の歴史に理解を深め、誇りと愛着を持てるように、市史資料の公開・活用を図っていくことも課題である。

このことから、市民の豊かな心や地域に対する関心の醸成を図るため、自主的な文化・芸術活動を積極的に支援する。また、市民が様々な文化や芸術に触れることができる取組を進める。

さらに本市の歴史や文化財は、先人の残した文化遺産であり、その価値や意義を踏まえ次世代に適切に継承していくため、市民の郷土意識の涵養を図り、本市に残る各種の有形・無形文化財、埋蔵文化財、地域史料の保護や保存及び活用を進めていく。

(基本目標Ⅳ)

市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる 〔生涯学習・青少年健全育成〕

生きがいを持ち、充実した生活を送れるよう、生涯にわたって学習できることは重要である。さらに、少子高齢化やライフスタイルの多様化により、生涯学習に対する市民のニーズも変化している中、学習メニューの充実や開講日時の工夫により

幅広い年齢層の参加促進を図るとともに、効果的な学習サービスの提供体制を構築することが課題となっている。

子どもから高齢者まで市民一人ひとりが自ら学び、生きがいや自己実現などにつながる生涯を通して学習ができる環境づくりを進める。

また、生涯学習活動を通じて、地域への愛着を生み、地域づくりのための社会参加を促すとともに学習成果を地域に還元できるような支援を行う。あわせて活動の場としての生涯学習施設の整備を推進する。

さらに、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育み、子どもたちが安全で安心して健やかに成長できるよう、学校・家庭・地域の連携を図り、青少年の健全な育成に向けた活動を推進していく。

印西市の教育施策の体系

基本理念

基本方針

基本目標

主な取組

主な事業における重点的な取組

だれもが輝き
ともに歩む
くらしの学び

1. 学校・家庭・地域が連携強化し、未来を拓く子どもを育む教育の推進

2. 市民が学びあい・活かしあい、地域に誇りと愛着が持てる学びの推進

3. すべての市民の健やかな心と体を育む学びの推進

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む
〔学校教育〕

II. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる
〔教育環境〕

III. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する
〔文化・芸術〕

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる
〔生涯学習・青少年健全育成〕

1 子どもたちの学ぶ力を育む

2 子どもたちの豊かな心を育む

3 子どもたちの健やかな体を育む

1 教育環境整備の充実

2 学校の適正規模・適正配置の推進

3 情報化社会に対応した教育の推進

4 信頼される学校づくり

1 文化・芸術活動の推進

2 文化財の保護・活用の推進

3 市史編さん事業や地域史料の保存

1 多様な学習機会の提供

2 図書館サービスの充実

3 生涯学習施設の整備・充実

4 家庭と地域の教育力向上と青少年の健全育成

・個性や能力を伸ばす教育の推進
・指導法等の研修の充実
・国際理解教育の推進

・道徳教育の充実
・人権教育の推進
・適応指導教室事業の推進

・学校体育の充実
・学校環境衛生の充実と感染症対策の徹底

・安全な学校・幼稚園施設等の充実

・情報教育の推進

・学校情報公開と地域の連携

・文化・芸術活動の支援

・指定文化財保護事業
・文化財の活用事業
・郷土資料の収集・保存・展示

・市史編さん事業

・市民アカデミーの充実
・社会教育関係団体の支援

・図書館サービスの充実

・生涯学習環境の整備・充実

・家庭教育学級の充実

3 点検評価結果

点検評価結果 目次

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

- | | |
|------------------|--------|
| 1 子どもたちの学ぶ力を育む | 12～16頁 |
| 2 子どもたちの豊かな心を育む | 17～18頁 |
| 3 子どもたちの健やかな体を育む | 19～22頁 |

II. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる〔教育環境〕

- | | |
|-------------------|--------|
| 1 教育環境整備の充実 | 23頁 |
| 2 学校の適正規模・適正配置の推進 | 23頁 |
| 3 情報化社会に対応した教育の推進 | 24頁 |
| 4 信頼される学校づくり | 25～26頁 |

III. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する〔文化・芸術〕

- | | |
|-------------------|--------|
| 1 文化・芸術活動の推進 | 27頁 |
| 2 文化財の保護・活用の推進 | 28～29頁 |
| 3 市史編さん事業や地域史料の保存 | 30頁 |

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる〔生涯学習・青少年健全育成〕

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1 多様な学習機会の提供 | 31頁 |
| 2 図書館サービスの充実 | 32頁 |
| 3 生涯学習施設の整備・充実 | 33頁 |
| 4 家庭と地域の教育力向上と青少年健全育成 | 33～34頁 |

◇ 参考

- | | |
|---------------------------------|--------|
| 第2期教育振興基本計画（R4～R7）の成果指標に対する達成状況 | 35～36頁 |
|---------------------------------|--------|

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学び力を育む
(★は、重点的な取組) 指導課・学務課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 個性や能力を伸ばす教育の推進★	<ul style="list-style-type: none"> ○学級経営相談支援の実施 ○漢字級別認定テスト「印西漢字マスター」の実施 ○計算力認定テスト「印西計算マスター」の実施 ○社会科ワークテストの作成及び活用 ○生徒指導の機能を重視した「わかる授業」展開の推進 ○基礎学力向上のための取組の推進 ○個に応じた指導方法の工夫・改善及び指導体制の充実 ○ICTを活用した授業づくりの推進と支援 ○学校支援ボランティア・学生ボランティアの活用 (順天堂大学、秀明大学、日本医科大学看護専門学校等との連携) ○教職インターンシップ「あすなる先生」の派遣 (秀明大学との連携) ○デジタル教材の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○2校からの要請に応じて学校を訪問し、対象者に基本的な授業技術や学級経営について指導助言した。 ○年3回実施し、のべ12,000名を超える児童生徒が受検した。 ○年3回実施し、のべ12,000名を超える児童が受検した。 ○社会科副読本「わたしたちの印西市(小学3・4年生版)」に準拠したワークテストの活用を推奨した。 ○59回の要請に応じて学校を訪問し、授業研修会等で助言・支援した。 ○各校でドリルタイム設定やICTの活用を通して、計算・漢字等の基礎学力の向上を図った。 ○各種研修会において教職員の資質向上を図るとともに、学習指導員等の配置やボランティアの活用を行った。 ○1人1台端末の活用に向けて、集合研修6回、少人数研修10回を実施し、ICT活用推進に努めた。 ○各学校合計621名のボランティアの協力を得て、学習支援の充実と環境整備等の推進を図った。 ○6月から1月まで週1回、20名の学生を6小学校及び4中学校に派遣し、学生の教職インターンシップを支援した。 ○1人1台端末を利用し、指導者用・学習者用デジタル教科書や、web上の素材を授業で効果的に利用できるよう支援した。
事業評価★	A	
2 教職員研修(主任・層別等)の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教頭研修会の開催 ○教務主任研修会の開催 ○生徒指導担当者研修会の開催 ○情報教育研修会の開催 ○国際理解教育担当者研修会の開催 ○学校図書館担当者研修会の開催 ○体育主任研修会の開催 ○安全主任研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の教頭を対象に、2回の研修会を実施した。 ○小中学校の教務主任を対象に、5回の研修会を実施した。 ○小中学校の生徒指導担当者を対象に、いじめや不登校の対応への共通理解を図る研修会を3回実施した。 ○集合・オンライン形式で研修をそれぞれ1回実施し、情報教育の推進と機器の操作方法について周知を図った。 ○小中学校の国際理解教育担当者を対象に2回の研修を実施し、小中連携の計画・協議や外国語指導法の研修を行った。 ○小中学校の学校図書館担当者を対象に、図書システム研修会を2回実施した。 ○小学校体育科主任研修会を3回通常開催、中学校保健体育科主任研修会を書面開催で実施した。 ○小中学校の安全主任を対象に、1回の研修会を実施し、安全主任の役割や通学路の点検について確認した。

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学び力を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学務課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
	<ul style="list-style-type: none"> ○養護教諭研修会の開催 ○特別支援教育コーディネーター研修会の開催 ○教育相談研修会の開催 ○若年層研修会の開催 ○非常勤職員研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の養護教諭を対象に、3回の研修会を実施した。 ○小中学校の特別支援コーディネーターを対象とした研修会を1回実施した。 ○小中学校の希望する教職員を対象に3回の研修会を実施した。 ○臨時的任用講師・非常勤講師を対象とした研修会を5回実施した。 ○小中学校の学習指導員・介助員、幼稚園の補助教員・支援員を対象に2回の研修会を実施した。
事業評価	A	
3 指導法等の研修の充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導法等に関する研修会の開催 ○教科教材研究等に関する研修会の開催 ○道徳教育授業研修会の開催 ○実技研修会の開催 ○ICT実技研修会及びICT活用研修会の開催 ○特別支援教育研修会の開催 ○授業相談支援の実施 ○各種出前授業の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の希望する教職員を対象に研修を3回実施した。 ○小中学校の希望する教職員を対象に研修を3回実施した。 ○小中学校の道徳教育担当者を対象に、校内での授業研究を含め、合計3回の研修を実施した。 ○小中学校の希望する職員を対象に4回の集合研修を実施した。 ○小中学校の希望する職員を対象に4回の集合研修を実施した。 ○小中学校の特別支援教育担当者を対象とした研修会を1回実施した。 ○小中学校の要請に応じて、指導主事等が授業づくり、学級経営、校内研究及び研究発表等に関する指導・助言を59回実施した。 ○小中学校の要請に応じて、児童生徒・保護者を対象に、指導主事等によるSNSネットリテラシー出前授業を16回実施した。
事業評価★	A	
4 校内研修の支援	○授業研修での指導・助言	○各小中学校に指導主事等を59回派遣し、指導・助言を行った。
事業評価	A	
5 教育課題調査・研究・開発	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力調査と活用 ○教育に関する調査・研究・開発 ○研究校等、特色ある教育活動への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○思考力・判断力・表現力の育成をねらい学力調査の選定を行った。 ○全国学力・学習状況調査の結果について調査し、考察を加えた冊子を作成し、各校に指導法改善の周知を図った。 ○外国語教育、情報教育、環境教育、食育指導、心のバリアフリー教育、学校体育研究などの特色ある教育活動を行う7小学校及び2中学校への支援を行った。

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学び力を育む (★は、重点的な取組) 指導課・学務課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の研究開発 ○教科指導法の指導・支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育センターにおいて、社会科ワークテストや漢字・計算力検定、SNS等対応ネットリテラシー教材等を改訂した。 ○小中学校の要請に応じて、指導主事等が教科指導に関する指導・助言を行った。
事業評価	A	
6 教育研究団体支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員による自主講座の開催 ○本市教育研究会への指導・助言 ○各研究団体の活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○要請に応じて、指導主事等を研修会に派遣し、指導・助言を行った。 ○要請に応じて、指導主事等を3校の授業研修会に派遣し、指導・助言を行った。 ○要請に応じて、指導主事等を派遣し、活動支援を行った。
事業評価	A	
7 幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育に関する様々な情報の提供 ○組織的・計画的な園内研修の推進 ○職場見学や体験を通しての交流 ○子ども発達センターや健康増進課等との連携 ○指導補助や支援のための非常勤職員の配置 ○相談支援ファイルを活用した早期就学相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会や園だより等を通じ、園児の様子や幼児教育に係る情報を積極的に提供した。 ○年間計画に基づき、非常勤職員等も含めた園内研修を実施した。 ○1園で小学校の職場見学学習を行った。中学校の職場体験学習については、新型コロナウイルス感染症対策のため実施しなかった。 ○関係課の職員と年8回の会議を実施したり、全小中学校への巡回訪問を2回行ったりする中で、児童生徒の指導・支援に関して情報共有を図った。 ○2幼稚園に補助教員7名、支援員4名を配置した。 ○コスモスファイルを活用し、年間を通じた個別の就学相談を実施した。
事業評価	A	
8 読書活動推進のための学校図書館の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書システムの活用による学校間貸出の推進 ○計画的な図書資料の選定と購入 ○蔵書点検の実施 ○学校司書の適切な配置 ○学校司書連絡会の定期的な開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書システムを活用し、7の小中学校間で合計23冊の貸し出しを行った。 ○文部科学省が示す学校図書館図書標準に基づき、児童生徒への指導に適した蔵書の選定及び購入を行った。 ○新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、18校の蔵書点検を実施した。 ○全小中学校に学校司書13名を配置した。 ○オンライン形式・集合形式を取り入れ、学校司書を対象とした連絡会を11回実施した。
事業評価	A	

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学ぶ力を育む
(★は、重点的な取組) 指導課・学務課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
9 市立図書館との連携事業の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館担当者会議、学校司書連絡会での情報交換 ○市立図書館からの団体貸し出しの利用促進 ○スクール便貸出事業 ○図書館司書研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書を対象とした連絡会を11回実施し、情報交換を行った。 ○小中学校の要望に応じて、市立図書館から学校へ13件の団体貸し出しを利用した。 ○市立図書館からスクール便として、17小学校及び2中学校に年3回ずつ、書籍のセット貸し出しを利用し、読書活動推進を図った。 ○学校司書を対象とした連絡会を11回実施した。
事業評価	A	
10 国際理解教育の推進★	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語指導助手 (ALT) 及び日本人英語教育コーディネーターの活用 ○日本語指導員の派遣 ○小学校中学年の外国語活動及び高学年の外国語科の充実 ○小学校低学年における国際理解教育の推進 ○イングリッシュアカデミーホップ (小学3・4年生対象の英語研修会) の実施 ○イングリッシュアカデミーステップ (小学5・6年生対象の英語研修会) の実施 ○イングリッシュアカデミージャンプ (中学生対象の海外派遣研修) の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○全幼小中学校に13名のALTを、18小学校に9名の英語教育コーディネーターを配置し、コミュニケーション能力の育成に向けた実践力の向上を図った。 ○8名の日本語指導員を9校に配置し、外国人児童生徒や帰国児童生徒の円滑な学校生活や学習活動の保障を行った。 ○全小学校において、3・4年生は年間35時間の外国語活動を、5・6年生は年間70時間の外国語科の授業を実施した。 ○各小学校において、外国語活動や休み時間等でALTと触れ合う機会を多く設けた。 ○ALTを活用し、夏季休業中に小学校3・4年生を対象とした半日の研修を2回実施した。 ○ALTを活用し、夏季休業中に小学校5・6年生を対象とした半日の研修を2回実施した。 ○3月末に海外派遣研修を計画したが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。代替研修として、本塾中学校を会場とし、半日の海外留学疑似体験学習を実施した。
事業評価★	A	
11 特別支援教育及び支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用 ○学習指導員及び介助員の配置 ○校内支援体制の充実 ○定期的巡回相談の実施 ○専門家チームの活用 ○家庭、医療、関係機関等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○小・中学校において個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成し、具体的な指導・支援に活用した。 ○小・中学校において学習指導員46名、介助員39名を配置した。 ○児童生徒の教育的ニーズに応じて、支援学級・通常学級間の交流学習を行うとともに、校内では組織的対応を図った。 ○関係課の職員と連携し、全小中学校への巡回訪問を2回行い、児童生徒の指導・支援に関して情報共有を図った。 ○専門家チーム会議を1回実施し、事例検討を中心に行った。 ○児童生徒個々の教育的ニーズに合わせて対応できるよう、必要に応じて国際医療福祉大学成田病院等と指導・支援の方法に関する情報共有及び連絡調整を図った。

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 子どもたちの学ぶ力を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学務課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
	<ul style="list-style-type: none"> ○適応指導教室との連携 ○特別支援教育に関する研修会の開催 ○コスモスファイルを活用した児童生徒理解 ○インクルーシブ教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒個々の教育的ニーズに合わせて対応できるよう、必要に応じて指導・支援の方法に関する情報共有及び連絡調整を図った。 ○小中学校の特別支援教育担当者を対象とした研修会を1回と、学習指導員及び介助員等を対象とした研修会を2回実施した。 ○就学相談ではコスモスファイルの持参を依頼し、他機関での相談や幼稚園からの情報記録もしながら相談を行った。 ○小中学校の要請訪問で、合理的配慮やユニバーサルデザインにおける基礎的な知識などの理論研修を行った。
事業評価	A	
12 教育支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○教育支援委員会の開催 ○早期就学相談の実施 ○関係課担当者会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○11名の委員により、4回の委員会を実施した。 ○5月に就学相談会を2回実施した。また、年間を通して個別の就学相談を実施した。 ○5課担当者会議を8回実施した。ネットワーク部会は2回計画した。1回は対面式及びオンライン式のハイブリット開催とした。
事業評価	A	
13 キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校職場体験学習 (印西市生き生き体験) の実施と小学校職場見学学習の支援 ○地域の企業、職業人との連携 ○キャリア・パスポートへの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内59事業所の協力のもと、中学校4校が職場体験学習を実施した。5校は新型コロナウイルス感染症対策のため中止し、代替として職業人を招き、講話会等を実施した。 ○各学校で民間事業所の方や職業人を講師に招き、講話会等を実施した。 ○市内全小中学校、児童生徒一人ひとりにキャリアパスポートを配布し、キャリア教育の推進を図った。
事業評価	B	

<p>今後の施策の方向性</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、一部の事業を中止したり変更したりすることになったが、工夫しながら事業を実施し児童生徒の学ぶ力を育むことができているので、事業を継続し、更に施策の推進を図る。</p> <p>会議や研修会、連絡会については、オンラインでの開催も含め、より効果的・効率的な開催方法を工夫していく。</p> <p>教科等の指導における1人1台端末の活用について、教職員の技能や意識を向上していけるよう支援の充実を図りたい。</p> <p>国際理解教育の充実に向けて、ALTや日本人の英語教育コーディネーターの配置による授業支援、市独自の英語コミュニケーション能力検定テストの開発、外国語教育における小中連携を推進していく。</p>
------------------	--

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

2 子どもたちの豊かな心を育む (★は、重点的な取組) 指導課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 道徳教育の充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育全体計画の改善と校内推進体制の充実 ○道徳教育授業実践研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校の道徳教育推進教師を中心に計画の見直しや指導の実践を図った。 ○小中学校から推薦された教職員を対象に、3回の研修会を実施した。
事業評価★	A	
2 人権教育の推進★	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育全体計画の改善と心を育てる教育の充実 ○人権教育研修の実施 ○人権教室の開催 ○いじめに関するアンケートの定期的な実施 ○いじめ防止対策委員会の開催 ○家庭・地域や関係機関との連携による人権意識の啓発 ○多様性を尊重する人権教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○国や県の動向を踏まえた各校の取組について指導・助言を行った。 ○要請のあった小中学校で、指導主事等による人権教育に関する校内研修を実施した。 ○各学校で道徳や学年集会の時間を使い、人権教育の推進を図った。 ○全小中学校で定期的なアンケート及び教育相談を実施し、いじめの未然防止、早期発見、事態解決を図った。 ○毎月1回実施し、いじめの実態把握や未然防止、早期発見等の対応について共通理解を図った。 ○学校からの便り及び学校ホームページ等を通じて、学校の取組について情報発信した。 ○LGBTQの方への配慮や理解を深めるための教育活動について、要請訪問の際に指導助言を行った。
事業評価★	A	
3 文化・芸術体験事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○さわやかハートフルコンサートの開催 ○小学校芸術鑑賞教室の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校5年生、音楽系部活動及び中学校代表生徒を対象に、日頃の音楽練習の成果を発表し合う場としてコンサートを開催した。新型コロナウイルス感染症対策のため、他校の鑑賞は1校のみとした。 ○小学校6年生を対象に計画し、観客動員人数を総集客数の半分にして、6回公演で予定どおり実施した。
事業評価	B	
4 体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○奉仕等体験活動の実施 ○自然科学体験学習の実施 ○みどりの少年団活動の推進 ○親子体験学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校では年間計画に基づき、学校や地域の美化活動を実施した。 ○各校では年間計画に基づき、児童生徒や地域の実態に応じた自然体験学習を実施した。 ○全小中学校で緑化活動に取り組んだ。 ○児童生徒・保護者を対象に、里山観察会、オンライン形式の科学実験講座、星空観望会を実施し、120名が参加した。
事業評価	A	
5 郷土愛を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○地域学「ふるさと印西」の実施 ○各小中学校に設置している「歴史資料室」の内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域学「ふるさと印西学」の教材を開発し、学習を全校で実施した。 ○各学校において掲示物及び展示物等の見直しや更新を行い、内容の充実に努めた。

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

2 子どもたちの豊かな心を育む (★は、重点的な取組) 指導課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
	○地域資源・地域人材の活用	○各学校において地域資源・地域人材の活用に努めた。
事業評価	B	
6 適応指導教室事業の推進 ★	○適応指導教室の充実 ○適応指導教室連絡会の実施	○「緑のまきば」「森のステーション」2つの適応指導教室を運営し、小学生7名、中学生24名が在籍した。 ○より丁寧な個別指導の観点から、適応指導教室連絡会ではなく個別の保護者面談を実施した。
事業評価★	A	
7 教育相談の充実	○面接相談・電話相談の充実 ○不登校児童生徒等の相談の充実 ○関係機関との連携 ○訪問指導の充実 ○スクールカウンセラー等の活用 ○学校諸問題に対する助言・指導	○面談件数は145件、電話相談件45件のうち、子ども相談室の利用は42件であった。 ○必要に応じてケース会議を実施し、訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカー等との連携を図った。 ○学校だけではなく、市の子育て支援担当課や医療機関との連携を図った。 ○訪問相談担当教員やスクールソーシャルワーカーを活用し、相談の充実を図った ○全小中学校に配置されたスクールカウンセラーが、児童生徒及び保護者の相談に関わった。 ○2名の学校問題対策指導員が、学校の諸問題に対して、広い視野から総合的見地に立って134回の指導・助言を行った。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため集合型・体験型の事業を一部中止することもあったが、ほとんどの事業について、内容の変更や、人数や時間の縮小をすることで、児童生徒の豊かな心を育むことができているので、事業を継続し、更に施策の推進を図る。</p> <p>今後は、従来の方法での実施に戻しつつ、より効果的・効率的な実施を検討していく。</p> <p>児童生徒への心の教育の充実を図るとともに、いじめや不登校への対策、悩みを抱える児童生徒への支援のため、関係・専門機関との適時かつ継続的な連携を図っていく必要がある。</p>
-----------	---

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

3 子どもたちの健やかな体を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学校給食課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 学校体育の充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○体育主任会議の開催 ○小学校駅伝競走大会の開催 ○中学校武道学習における外部指導者の活用 ○授業や大会等における順天堂大学との連携強化 ○運動に親しむ能力を育成するための授業改善指導 ○体力・運動能力調査の集計・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の会議を3回、中学校の会議を1回、合わせて4回通常開催した。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、応援児童なしなどの縮小はしたが、全小学校が参加し実施した。 ○県の特別非常勤講師配置事業により、1中学校に1名の外部人材を配置し、活用した。 ○小学校駅伝競走大会にて、伴走等で協力を得て実施した。また、小中学校15校のオリパラスポーツ教室で協力を得た。 ○各校からの要請に基づき、指導主事を派遣し、体育科(保健体育科)学習の授業改善を図った。 ○とりまとめた集計結果を各学校に周知し、各学校での体育科(保健体育科)学習や体力向上の取組に生かした。
事業評価★	A	
2 運動部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動サポート事業による指導者派遣 ○部活動補助金交付事業による経済的支援 ○部活動の適切な運営に向けた指導・助言 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動サポーター17名を派遣し、技能及び競技力の向上を図った。 ○各種大会及び関東大会・全国大会参加者18人の交通費等の経費について支援を行った。 ○活動方針や活動報告、日々の活動の様子を確認し、安全で適切な部活動運営ができるように助言を行った。
事業評価	A	
3 健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導教材の整備 ○薬物乱用防止教育の推進 ○養護教諭、小児科医による「いのちの授業」の実施(中学生対象) ○養護教諭、助産師、保健師等による性に関する指導の実施(小学6年生、中学3年生対象) ○学校医、学校歯科医、学校薬剤師との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○沐浴人形等の貸し出しを2校に行った。 ○小中学校合わせて16校で薬物乱用防止教室を実施するとともに、薬物の依存性や怖さについて学習する保健領域の授業を行った。 ○中学校3校で実施した。オンラインを活用し、感染症対策にも配慮して実施できた。 ○全小中学校に助産師を派遣し、思春期の体や心、いのちの安全教育について授業を行った。 ○新型コロナウイルス感染症対策のため、学校保健会理事会を书面開催した。
事業評価	B	
4 学校保健会の活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○各部会(小児生活習慣病予防、歯科保健、アレルギー対策、感染症対策等)及び研修会(学校薬剤師、養護教諭、栄養教諭等)の活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策のため、小児生活習慣病予防検討部会及び歯科保健検討部会を书面開催し、感染症対策検討部会を中止とした。 ○アレルギー対策検討部会を1回、学校薬剤師部会を2回、栄養士部会を3回、養護教諭部会を3回実施した。

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

3 子どもたちの健やかな体を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学校給食課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
	○「印西市の学校保健」(小冊子)と学校保健会報の発行	○「印西市の学校保健」を1回、学校保健会報を1回発行した。
事業評価	B	
5 健康診断の実施と事後措置の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○就学前児・児童・生徒の健康診断の実施 ○健康診断結果の集計と分析 ○個別指導の充実(治療勧告) 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒への定期健康診断(内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査・結核等)及び就学時健康診断を実施した(一部縮小実施あり)。 ○健康診断結果を「印西市の学校保健」にまとめた。 ○健康診断結果に基づき保護者に治療勧告を行うとともに、個別指導を実施した。
事業評価	A	
6 小児生活習慣病の予防	<ul style="list-style-type: none"> ○学校医、養護教諭、栄養教諭等による小児生活習慣病予防検討部会の開催 ○小児生活習慣病予防検診の実施(小学5年生、中学1・3年生対象) ○養護教諭、栄養教諭等による小児生活習慣病予防教室及び事後指導・個別相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策のため、小児生活習慣病予防検討部会を书面開催した。 ○小学5年生、中学1・3年生を対象に、小児生活習慣病予防検診を実施した。 ○養護教諭、栄養教諭等による小児生活習慣病予防教室及び事後指導・個別相談を全校で実施した。
事業評価	A	
7 口腔衛生事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校歯科医、養護教諭、歯科衛生士等による学校歯科保健検討部会の開催 ○学校歯科医、歯科衛生士等による歯科相談・ブラッシング指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策のため、学校歯科保健検討部会を书面開催した。 ○学校歯科医、歯科衛生士等により、新型コロナウイルス感染症対策のため、ブラッシング指導の実技は実施せず、講義を中心とした保健指導を実施した。
事業評価	B	
8 保健室機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○保健室の整備 ○健康相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策のため、消毒液等の衛生物品の配付を随時行った。 ○養護教諭の資質向上と児童生徒の健康課題解決を目指して、養護教諭部会の中に保健指導班を設け、研鑽を積んだ。
事業評価	A	
9 学校環境衛生の充実と感染症対策の徹底★	○環境衛生検査(水質検査、照度検査、空気検査等)の実施	○照度・照明検査、飲料水水質検査、空気環境調査(ホルムアルデヒド・二酸化炭素・二酸化窒素)、ダニアレルゲン検査、配膳室衛生検査を実施した。

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

3 子どもたちの健やかな体を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学校給食課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
	<ul style="list-style-type: none"> ○学校医・学校薬剤師等との連携による衛生管理体制の整備 ○環境衛生を良好に保つための適切な消毒や清掃の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要時、学校医・学校薬剤師等に相談し、学校の衛生管理に努めた。 ○感染症拡大防止対策のため、適切な消毒や清掃を行った。
事業評価★	A	
10 食に関する指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「印西市食育ミニマム」や食に関する指導の全体計画に基づいた組織的な指導 ○栄養教諭、養護教諭、学級担任等の連携による食育指導 ○栄養教室・食育の授業の開催 (全小学校1・3年生、希望による小学校2・4・6年生に実施) ○小児生活習慣病予防教室の開催 (小学校5年生、中学校1年生対象) ○家庭・地域と連携した食育の推進 ○ちば食育ボランティア、ちば食育サポート企業の活用 ○給食レストランの開催 (市民対象) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「印西市食育ミニマム」の職員への周知を行い、組織的な指導の推進に努めた。 ○各種授業や給食時の訪問等で、学校と連携を図りながら実施した。 ○栄養教室は、小学校1年生「みんなの給食」を全学校に実施した。小学校3年生「野菜パワーのひみつ」については、2校で新型コロナウイルスにより実施できなかった。食育の授業は、小学校2年生「3つのなかまわけ」(15校)、小学校4年生「元気が出る朝ごはんを考えよう」(14校)、小学校6年生「栄養を考えた朝食にしよう」または「1食分の献立をたてよう」(14校)を希望校で実施した。 ○養護教諭及び給食センター栄養士の指導により、小学校5年生「生活習慣病を予防しよう」、中学校1年生「バランスの良い朝食を食べて生活習慣病を予防しよう」を全小中学校で実施した。 ○食育つうしんを年12号発行し、家庭への啓発を行った。授業終了後、指導内容がわかる保護者資料の配付とともに家庭と連携した事後活動を実施した。 ○学校と連携し、食育サポート企業を活用して授業を行った。 ○新型コロナウイルス感染症対策及び調理場の調理能力が超過している状況により、中止した。
事業評価	A	
11 学校給食の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○献立の工夫と改善 ○衛生管理の徹底 ○給食残渣等の再資源化 	<ul style="list-style-type: none"> ○印西市産の食材を45%、千葉県産を22%使用し、地産地消を推進した。 ○新型コロナウイルス感染症対策のため講習会等中止し、衛生管理に関する資料を配付するなど各施設での知識の普及に努めた。 ○給食残渣の再資源化(堆肥化)を業者委託により実施し、実績として109,410kgを再資源化した。

点検評価調書

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

3 子どもたちの健やかな体を育む

(★は、重点的な取組) 指導課・学校給食課

事 業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
	○食物アレルギーへの対策及び食物アレルギー対応給食の提供	○食物アレルギーの保健調査票を基に使用食品一覧表、加工食品分析表を保護者に配布し、事故防止に努めた。また、特別調理室のある中央学校給食センターでは、対応給食(卵・乳の除去食)の提供を実施した。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	<p>学校体育、学校保健においては、新型コロナウイルス感染症対策のため集合型・体験型の事業を中止することもあったが、多くの事業については、内容を変更したり、人数や時間を縮小したりしながら実施した。児童生徒の健やかな体を育むことができているので、事業を継続し、更に施策の推進を図る。</p> <p>全国的に児童生徒の体力・運動能力の低下が指摘されており、本市においても改善に向けた努力が必要である。</p> <p>今後は、従来の方法での実施に戻すことを基本としつつ、関係課や関係機関との連携を図り、児童生徒の体と心の健康を保持していきたい。</p> <p>食に関する指導の推進については、学校と連携をとりながら、全体計画に基づく組織的な指導で更なる充実を図りたい。</p> <p>学校給食については、増加する児童生徒数に対応するための施設整備と並行して、引き続き安全で安心な給食を提供できるよう進めていく。</p>
-----------	--

点検評価調書

Ⅱ. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる [教育環境]

1 教育環境整備の充実

(★は、重点的な取組) 教育総務課・学務課・学校給食課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 安全な学校・幼稚園施設等の充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設等の大規模改修工事及び校舎増築工事 ○学校給食センターの施設及び老朽化への対応 ○管理・教材備品等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度は、原小学校校舎増築工事、高花小学校改修工事、原山中学校改修工事、滝野中学校校舎増築工事、原山小学校改修工事設計業務を行った。 ○(仮称)新高花学校給食センター建設工事に着手した。 ○令和4年度は、小学校146台、中学校45台の65型モニターを購入し、普通教室に1台と特別教室分2台ずつの大型モニター整備を完了した。
事業評価★	A	
2 就学援助の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に就学援助を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○要保護・準要保護家庭の小学校194名、中学校140名、児童生徒合わせて334名に対して就学援助費を給付した。
事業評価	A	
3 修学旅行費補助事業	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校が実施する修学旅行に際し、保護者が負担する費用の一部を補助 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校18校、中学校9校に対し、修学旅行費補助を実施した。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	<p>今後も計画的な学校施設等の改修工事及び児童・生徒数の増に対する学校校舎増築工事を行う。 就学援助制度を必要とする家庭が利用できるよう、周知方法について検討するとともに、学校との連携を図りながら事業をすすめていく。</p>
-----------	---

2 学校の適正規模・適正配置の推進 学務課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 学校の適正規模・適正配置の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校適正規模・適正配置基本方針における検討対象校の適正化に向けた検討と調整 ○学校適正配置審議会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○船穂小学校・本壱中学校について小規模特認校制度を試行導入し、また原小学校について、施設教室不足等に関する対応の説明会を実施した。 ○8回の審議会を開催し、第二次学校適正規模・適正配置基本方針についての諮問に係る答申を受けた。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	<p>「印西市学校適正規模・適正配置基本方針」における検討対象校について引き続き学校適正配置の推進を進めるとともに、学校適正配置審議会から受けた答申を踏まえ、令和5年度中に第二次印西市学校適正規模・適正配置基本方針を策定する。</p>
-----------	---

点検評価調書

Ⅱ. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる [教育環境]

3 情報化社会に対応した教育の推進

(★は、重点的な取組)指導課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 ICT環境の整備と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○教科指導用ICT関連環境整備の充実 ○校務支援システムの機能の充実 ○校務支援システムを活用した学籍、成績、保健等の校務情報化の推進 ○公簿や文書、教育情報の電子化の推進 ○各システムやサーバー・端末等の適正な運用管理 ○学校間グループウェアと文書管理システムを活用した教育関係資料・各種文書の電子化及び共有化 ○学校ホームページ及びメール配信システムの広報的機能強化 ○学校図書館システムの活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○1人一台端末の活用に関する情報提供と、教育センターによるワンストップでの修理・トラブル対応を行った。 ○システム導入業者との月に1回のミーティングを実施し、現場の要望のうち可能なものを機能に反映させた。 ○学籍、成績、保健情報を教育系サーバーにおいて一元管理し、安全かつ適切な情報管理に努めた。校務支援システムの利便性向上のためバージョンアップを実施した。 ○教育委員会からの通達文書のほぼ全てをデジタル化して、各校へ発信した。グループウェアの機能を利用して、校内デジタル回覧を行った。 ○保守管理の委託業者が適宜対応し、トラブルの未然防止と早期対応を図った。 ○教育委員会からの通達文書はグループウェアを利用して円滑に接受・校内回覧が行われるようにした。 ○小中学校ホームページにて日常的に情報を発信しており、市内小中学校全体で年間約1,000万件を超えるアクセスを得た。 ○図書システムの機能については学校司書に周知を図り活用推進に努めた。
事業評価	A	
2 情報教育の推進★	<ul style="list-style-type: none"> ○SNS等対応ネットリテラシー教育の充実 ○情報セキュリティポリシー遵守の徹底 ○教育CIOの配置、ヘルプデスクの設置 ○教育資料の収集・活用・提供 ○教育センターホームページによる教育広報推進 ○教科等、情報教育、プログラミング教育におけるICT活用に関する研修の実施及び各学校への出前講座実施、ICT支援員の派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の要請に応じて、児童生徒・保護者を対象に、指導主事等によるSNSネットリテラシー出前授業を16回実施した。この他各学校ごとにネットリテラシー教育を積極的に実施した。 ○セキュリティポリシーを、市内教職員が誰でも閲覧できるようにし、市内小中学校へ周知を図った。 ○校務システムに関するヘルプデスクを常設し、市内教職員の操作上の質問について迅速に回答した。 ○各校の資料を教育センターで学校ごとに保管している。指導案は市内教職員で共有し、日常の指導に役立てている。ICTを活用した情報共有の仕組みを整えている。 ○教育センターホームページに各校の様子や取組を日々紹介し、年間59万件のアクセスを得た。 ○ICT活用に関する校内研修に指導主事を派遣し、指導・助言を行った。また、個別の要請に対しても指導主事が対応し、授業での機器利用推進を図った。
事業評価★	A	
今後の施策の方向性	<p>各学校において一人一台端末の日常的な活用が行われている。端末を教材・教具、文具として日常的に利用することができるよう、市内小中学校への積極的な情報提供、市内教職員間の情報交流の場の設定、ICT支援員のより効果的な活用を図り、授業、校務の両面において情報化促進を図っていく。さらにより広い視点を持ち、校務・授業・保護者や地域との連携の観点で学校DXを推進する。</p>	

点検評価調書

Ⅱ. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる [教育環境]

4 信頼される学校づくり

(★は、重点的な取組) 指導課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全教室の実施 (市立幼稚園・小中学校対象) ○防犯教室の実施 (市立幼稚園・小中学校対象) ○避難訓練の実施 (市立幼稚園・小中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通指導員を派遣して、全幼稚園・全小中学校で交通安全教室を実施した。 ○防犯教室を全幼稚園・全小中学校で実施した。 ○避難訓練を全幼稚園・全小中学校で実施した。
事業評価	A	
2 児童生徒・園児の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○学校安全に関する計画やマニュアルの見直しと定期的な施設点検の実施に関する指導・助言 ○防犯ブザーの貸与 (小学新入生対象) ○自転車通学用ヘルメット貸与 (小・中学新入生対象) ○メール配信システムの活用 (市立幼稚園・小中学校等) ○防災行政無線を活用しての見守り活動の推進 ○安全主任等研修会の開催 ○こども110番の家の推進 ○台風・雷雨・竜巻等自然災害対応安全指導の充実 ○理科薬品の安全管理の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校より提出された防災計画・学校安全マニュアルの内容の点検を行った。また、諸表簿点検の際に指導主事等による確認を行った。 ○防犯ブザーを小学校1年生及び転入生に貸与した。 ○自転車通学用ヘルメットを自転車通学の中学校1年生に貸与した。 ○防犯情報、活動予定等を保護者等にメール配信し、主に緊急を要する情報の提供を図った。 ○継続的に実施した。 ○安全主任等研修会を1回実施した。 ○全小中学校で「こども110番の家」の設置を推進した。 ○自然災害への対応について、事前に各校へ注意喚起を促すとともに、各校では児童生徒への指導を行った。 ○全小中学校の理科薬品管理簿を点検し、確認事項や改善が必要な点について指導・助言を行った。
事業評価	A	
3 通学路の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○印西市通学路交通安全プログラムに基づいた通学路安全点検の実施と関係課、関係機関との連携・対応 ○安全マップを活用した児童への安全教育及び保護者・関係機関・関係者との情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小学校で通学路の点検を実施するとともに、関係各課・関係機関と連携し、通学路の改善を図った。 ○安全マップを小学校1年生及び転入生に配付し、学区内の危険箇所に対する注意喚起を行った。
事業評価	A	
4 学校管理下における災害共済給付	<ul style="list-style-type: none"> ○日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入の推奨 ○災害給付手続きに関する学校への情報提供及び指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校を通じて加入の推奨を行った。(全員加入) ○手続きに関する手引きを各校に配付するとともに、研修会等で指導・助言を行った。
事業評価	A	

点検評価調書

Ⅱ. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる [教育環境]

4 信頼される学校づくり

(★は、重点的な取組) 指導課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
5 学校情報公開と地域の連携★	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページを活用した学校広報の充実 ○教育センターホームページを活用した各学校の取組の共有化 ○地域人材の活用(学校・家庭・地域の連携) ○学校評価による学校教育の改善 ○学校公開授業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小中学校がホームページを通して積極的に情報を発信し、全校で年間約1,200万件を超えるアクセスを得た。 ○教育センターホームページで各校の様子や取組を紹介し、情報共有の推進を図った。 ○読み聞かせや職業人の講話等、地域人材活用の工夫に努めた。 ○各校で学校評価を実施し、結果をホームページ上などで公開した。 ○各校で分散型授業参観やオンライン授業参観等の工夫をし、授業公開の推進を図った。
事業評価★	A	
6 働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の勤務状況の把握及び改善の指導・助言 ○校務支援システムの活用促進 ○オンライン会議の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○I Cカードを利用した出退勤時刻の記録を行い、各学校ごとに職員の勤務状況を客観的な方法で把握し、必要に応じて職員への指導・助言を行った。 ○児童生徒の学籍、成績、保健情報を安全に一元管理し、事務文書の発出や提出のデジタル化を推進している。 ○必要に応じてオンライン会議を実施している。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、集合型・体験型の事業については、一部で内容を変更したり、人数や時間を縮小したりしながら実施し、学校安全を推進することができているので、事業を継続し、更に施策の推進を図る。</p> <p>宅地開発が進む地域や道路事情が悪い地域もあり、通学路の安全対策をより充実させる必要がある。引き続き各学校での点検や要望を踏まえながら、関係課や関係機関と連携し速やかな対応を図っていく。</p> <p>全ての小中学校で学校ホームページを日常的に更新し、学校の取組を発信することができている。今後もI C T活用を推進し、各学校での取組の周知や行事の公開など、オンライン形式での発信を推進していく。他の事業についてもI C T活用による効率化を図っていく。</p>
-----------	--

点検評価調書

Ⅲ. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する[文化・芸術]

1 文化・芸術活動の推進

(★は、重点的な取組)生涯学習課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 文化・芸術事業の充実	○文化ホール主催事業等の実施	○鑑賞型事業を7事業実施したうち、有料事業(5事業(うち1事業は新型コロナウイルス感染症の影響で中止))のチケット売上枚数は1,331枚であった。なお、無料事業(2事業)の参加者は744名であった。
事業評価	A	
2 文化・芸術活動の支援 ★	○市民文化祭の実施 ○市民の地域文化活動への支援 ○文化・芸術団体活動への支援 ○文化・芸術情報の提供 ○芸術ホール及びアートギャラリーの整備	○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、市民文化祭及びオンライン文化祭を実施した。 参加者及び来場者数は4,722人、出展数はオンラインを含めて310点であった。 ○市民の自主的な文化活動に対して、社会教育施設及び文化施設における活動支援、文化芸術関連情報の提供、成果の発表・発信の場の提供を行った。 ○文化芸術団体に対する活動及び発表の場の提供。事業の共催や後援により、団体活動の支援を行った。 ○公民館・文化ホール等の窓口へのポスター・チラシ等の配布、市ホームページへの掲載、関係団体への資料提供を行った。 ○令和7年4月のオープンに向け事業者と調整を行い準備を進めた。
事業評価★	A	
3 子どもたちの文化・芸術活動の充実	○文化・芸術活動体験の実施	○市民文化祭において文化芸術体験の機会を設けるため体験会の公募を行い、けん玉体験を行った。
事業評価	A	
4 文化・芸術活動を支える人材育成の推進	○芸術文化協会と連携し、地域の文化・芸術活動を支える人材育成を支援	○印西市芸術文化協会と連携し、各加盟団体の公益的で自主的な活動の支援を行った。
事業評価	A	

今後の施策の方向性	文化芸術活動については、各事業相互に関わりがあることから一体的に推進していくことが効果的であり、事業の実施にあたっては関連する事業などにも留意しながら取り組んでいく。また、子どもたちの文化芸術活動については、学校教育部門との連携も視野に入れながら充実に努めていく。
-----------	--

点検評価調書

Ⅲ. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する[文化・芸術]

2 文化財の保護・活用の推進

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 指定文化財保護事業★	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の保存 ○無形民俗文化財の継承支援 ○文化財の普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財所有者等に対し、文化財保存管理経費に伴う補助金を交付した。また、市指定史跡の環境保全に努めた。補助金交付8団体1,188,000円 ○指定無形民俗文化財の保存・継承活動に対し補助金を交付した。補助金交付2団体300,000円 ○地域における文化財愛護思想の普及と防災意識の向上のため、文化財防災訓練を実施した。また、指定文化財パンフレット等を2,000部印刷し配布するなど啓発に努めた。
事業評価★	A	
2 文化財基礎調査事業	<ul style="list-style-type: none"> ○仏像調査・石造物調査の実施、調査報告書刊行準備 	<ul style="list-style-type: none"> ○本埜地区石造物調査報告書を刊行した。
事業評価	A	
3 埋蔵文化財の保護事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市内主要遺跡調査の実施 ○埋蔵文化財の取扱い事務及び埋蔵文化財包蔵地の保護 ○道作古墳群等の活用事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内に多く所在する遺跡を保存・活用するため、主要遺跡のうち、結縁寺塚群及び戸ノ内遺跡の範囲内容確認調査を実施した。 ○開発行為等に伴う発掘調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の保護に努めた。 ○NPO法人小林住みよいまちづくり会と協働し秋に道作古墳群見学会を実施した。
事業評価	A	
4 文化財の活用事業★	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の活用 ○無形民俗文化財の公開 ○埋蔵文化財の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財の適切な保存管理による公開事業を中心に取り組んだ。また、市民団体による史跡の保存及び活用事業を展開した。 ○指定無形民俗文化財の公開については、新型コロナウイルス感染症防止のため、その多くが非公開又は中止となったが、無形民俗文化財パンフレットの配布や、伝統芸能フェスティバルのダイジェスト動画をホームページで引き続き公開するなど普及啓発に努めた。 ○発掘調査で出土した文化財について、修復可能な遺物については復元に着手し、その他については適正に管理保管している。また、前年度発掘調査分について報告書を作成し適切に記録保存している。なお、当該報告書については、関係自治体等にも配布し周知を図っている。
事業評価★	A	

Ⅲ. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する[文化・芸術]

2 文化財の保護・活用の推進

(★は、重点的な取組)生涯学習課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
5 印旛歴史民俗資料館運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市域の考古、歴史、民俗等の資料の収集・保管・調査・研究及び成果の公表 ○常設展示の実施 ○講座及び体験型事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の寄贈2件 令和3年度受け入れ資料等について、燻蒸を実施し、収蔵・展示環境調査や温湿度の計測を通じて資料の保管環境の維持に努めた。収蔵資料の整理を実施した。 ○考古資料(埴輪及び瓦塔)、民俗資料、民俗行事などの調査を実施し、研究紀要第5号を刊行した。 ○主に印旛地区の民俗、考古、歴史資料を展示し、市内無形民俗文化財記録映像の視聴を実施した。 開館日数291日、来館者数751人 ○資料館講座「印西の行商」を実施し、23人が参加した。 体験講座「埴輪(はにわ)をつくろう」、「勾玉づくり」、「正月飾りづくり」を実施し、計72人が参加した。
事業評価	A	
6 郷土資料の収集・保存・展示★	<ul style="list-style-type: none"> ○分散化した歴史的資料の集約化の検討 ○集約化に伴う新たな歴史文化施設の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○市で保管する歴史的資料の保管場所、種別、数量などの確認を実施し、分散化した歴史資料の現状を把握するとともに、集約化に向けた準備を進めた。 ○(仮称)印西市歴史文化施設基本計画策定委員会を立ち上げ、令和5年度中に計画を策定するよう令和4年度に中間報告を取りまとめた。
事業評価★	A	

今後の施策の方向性	<p>文化財の収集及び活用については、工夫をしながら引き続き取り組んでいく。印旛歴史民俗資料館の施設の老朽化による展示施設の検討や歴史資料の集約化による展示内容の充実のため、新たな歴史文化施設を含めて検討し、令和5年度末までに「(仮称)印西市歴史文化施設基本計画」を策定する。</p>
-----------	--

点検評価調書

Ⅲ. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する[文化・芸術]

3 市史編さん事業や地域史料の保存

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 市史編さん事業★	<ul style="list-style-type: none"> ○市史刊行に向けた資料収集・調査等の実施 ○市史講座等の実施 ○市史の刊行 ○市史刊行物の頒布 	<ul style="list-style-type: none"> ○編集会議2回、中世部会10回、近世部会4回、近現代部会16回、通史編近現代4の原稿執筆・編集 ○市史編さん講演会1回(参加者49人)、市史編さん講座2回(参加者のべ21人) ○市史研究誌『印西の歴史』第14号を刊行した。 ○265冊(対前年度+63冊)
事業評価★	A	
2 地域史料の保存及び活用	<ul style="list-style-type: none"> ○木下交流の杜歴史資料センターの管理・運営 ○古文書等の調査及び収集 ○古文書等の整理及び保存、活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○開館日数292日、来所者数3,174人 展示事業 常設展示(年間) ○資料の収集 随時、保管数量(整理済分) 寄託約33,000点、寄贈 約3,300点、購入4件415点、収集 地域情報紙265点、広告713点 ○仮整理済文書の仮資料目録電算化、市内(木下)所在古文書等資料再整理・目録作成 1,662点、市内(平賀)所在古文書等資料整理 2,119点
事業評価	A	
3 歴史公文書の収集、整理保管	○歴史公文書の引継、整理保管	○令和3年度保存期間満了文書の廃棄時収集55箱(文書保存箱)、行政資料の収集 庁内292件、保管数量 約1,850箱(保存箱換算)
事業評価	A	

今後の施策の方向性	事業を継続するとともに、資料の整理を進め、活用を図る。
-----------	-----------------------------

点検評価調書

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる [生涯学習・青少年健全育成]

1 多様な学習機会の提供

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 生涯学習情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習ガイドの発行 ○生涯学習ガイド冊子の内容を市ホームページで提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○300部発行し、講座、講師、団体、物品、施設情報を掲載した。ガイドは市内各施設(支所・公民館・保育園・幼稚園・小中学校・コミュニティセンター等)に配置した。 ○市ホームページに掲載し、随時追加情報の更新を行った。年間2,088回の閲覧に供した。
事業評価	A	
2 市民アカデミーの充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○市民アカデミーの充実 ○公民館・地域交流館などの事業での活用の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○学則及び学習プログラムの見直しを図り、コロナ禍でも学習機会の充実に努めた。 ○年間22回の講座を実施し、多様なジャンルでの学習を行った。
事業評価★	A	
3 公民館・地域交流館主催事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○市民ニーズや社会的課題をとらえた事業の実施 ○子ども対象事業の充実 ○大人対象事業の充実 ○団体や行政等との共催事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○防災講座 2講座 (延べ16人) ○工作、学習講座等 34講座 (延べ12,319人) ○趣味、教養、工芸等 30講座 (延べ2,815人) ○工作教室、野外教室等 2講座 (延べ107人)
事業評価	B	
4 生涯学習まちづくり出前講座の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学習機会を増やし、市民参画のきっかけとなる生涯学習まちづくり出前講座の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○市ホームページや広報で出前講座の周知に努めた。年間28件、485人が受講した。
事業評価	A	
5 産学官民の連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ○大学などの高等教育機関や企業などとの連携・協力 ○市民・市民団体との連携・協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○順天堂大学と生涯学習公開講座を実施し、親子スポーツ教室として年4回、23組68人が参加した。 ○市民アカデミーではオープンキャンパスで高等教育機関の施設を視察した。 ○市民アカデミーの講師や視察ガイドとして市民団体と連携を図った。
事業評価	A	
6 社会教育関係団体の支援★	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育関係団体の支援・連携強化 ○ボランティアの育成や地域で活動する個人・団体のネットワーク化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動支援のための補助金を交付するほか、事業後援等により活動の支援を図った。(後援:7事業) ○市民アカデミーの受講者や卒業生が市民活動団体へ加入したり、新たな団体の立ち上げ等についての機会づくりが実施できた。
事業評価★	B	
今後の施策の方向性	<p>継続事業については、事業効果を検証しつつ、より多くの市民の方への情報提供に努める。 市民アカデミー卒業生など、学習成果を地域に還元できる仕組みづくりについて、具体的な方策の検討を進める。</p>	

点検評価調書

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる
[生涯学習・青少年健全育成]

2 図書館サービスの充実

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 図書館サービスの充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の収集・管理及び提供 ○レファレンスサービス事業の充実 ○電子書籍の提供など非来館型サービスの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○市立図書館6館で、購入・寄贈により図書を10,486冊、雑誌を7,645冊受け入れ、延べ247,434人の利用者に814,954点の図書館資料の貸出しを行った。 ○市立図書館6館において、窓口・電話でのレファレンスを18,873件受付けした。 ○642点の資料を提供した。
事業評価★	A	
2 子ども読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○読書活動を深める機会の提供・充実 ○読書環境の整備・充実 ○読書活動に関する情報の普及・啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○通年で行うおはなし会(全館)に807名、夏のおはなし会(大森・印旛)に40名、クリスマス会(大森・小倉台・本埜)に75名の参加があった。小学生の職場体験は、木下小学校1校6名、中学生職業体験では、船穂中(2名)、原山中(2名)、本埜中(1名)、滝野中(2名)を受け入れた。 ○市立図書館6館で、購入・寄贈により児童書を2,429冊受け入れた。出前講座「本の修理講座」に1回、「読んであげよう」に2回職員を講師として派遣した。 ○「としょかんつうしん」を年6回、絵本のブックリスト「えほんのくに」を年3回、小学生向けのブックリスト「ほんのタネ!」を年1回、中学生向けのブックリスト「Book de Go!」を年1回発行し、情報の提供を行った。こどもの読書週間事業として、「図書館クイズ」(大森:参加者107名)、「春のスタンプまつり」(小林:参加者175名)、「児童特別展示」(小倉台・印旛)を行った。
事業評価	A	
今後の施策の方向性	「図書館サービスの充実」「子ども読書活動の推進」事業については、一定の実績があげられ、効果があったので、施策の目的を達成するため事業を継続する。	

点検評価調書

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる [生涯学習・青少年健全育成]

3 生涯学習施設の整備・充実

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 生涯学習環境の整備・充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館や地域交流館、図書館の適正な維持・改修 ○生涯学習施設の充実 ○社会教育主事の配置 ○小林コミュニティプラザ保全改修実施 ○(仮称)千葉ニュータウン中央駅圏複合施設整備事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館・交流館設備等の修繕を行い、施設の適正な維持に努めた。 ○各公民館・交流館でそれぞれの地域の特徴を生かした主催事業を展開した。 ○令和5年4月の発令に向けて、社会教育主事を対象とした研修等に参加した。 ○小林コミュニティプラザ保全改修工事を実施した。 ○施設の建設に向けた設計業務などの協議を事業者や関係所管課と行った。
事業評価★	A	

今後の施策の方向性	今後も施設の老朽化に伴う改修、維持管理を適切に実施する。
-----------	------------------------------

4 家庭と地域の教育力向上と青少年健全育成

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
1 家庭教育学級の充実★	<ul style="list-style-type: none"> ○各公立幼稚園・小中学校での家庭教育学級開設 ○家庭教育学級主事会議の開催 ○家庭教育学級運営委員研修会の開催 ○家庭教育指導員の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で33学級開設した。 【内訳】 幼稚園 2園、小学校 18校(延20学級)、 中学校 11校 ○年2回主事会議を開催し、情報共有を図った。 ○年2回研修会を開催し、学校と家庭における情報共有を図った。 ○家庭教育学級指導員を1名配置し、指導・助言にあたった。
事業評価★	A	
2 こども110番の家の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○こども110番運営委員会などの支援 ○こども110番ステッカー・看板の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業説明会の開催や損害賠償保険の加入などの支援を行った。 ○新規の協力申し込みや破損等による交換などの対応を行った。協力家庭及び事業所数の調査を実施したところ、1,543件にご協力をいただいた。
事業評価	A	

点検評価調書

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる [生涯学習・青少年健全育成]

4 家庭と地域の教育力向上と青少年健全育成

(★は、重点的な取組) 生涯学習課

事業	事業内容 (令和4年度目標)	令和4年度実績
3 青少年健全育成大会の実施	○社会を明るくする運動との共催による青少年健全育成大会の実施	○青少年の健全な育成を推進することを目的に、7月16日に文化ホールにて開催。当日は約200名の参加者が来場した。
事業評価	A	
4 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	○中学校区ごとに学校や地域で活動する団体が協力し、コミュニティづくりと生活環境の整備を図る地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の支援	○6中学校区(船穂・木刈・小林・西の原・滝野・本埜)でそれぞれ環境美化や通学路の見守り活動などを行った。
事業評価	A	
5 放課後子ども教室の実施	○放課後子ども教室の実施	○滝野小と本埜小の2か所で実施。概ね月1回の活動を行い、地域の方達との交流や体験活動を行った。
事業評価	A	
6 二十歳を祝う会の実施	○当該年度に20歳となる方々の企画・運営による二十歳を祝う会の実施	○新型コロナ対策のため2部制で実施。706名の成人が式典に参加した。
事業評価	A	
今後の施策の方向性	学校を軸とした地域や家庭との交流事業について、国・県が推進している事業を実施している先進自治体の事例等の調査研究を行い、本市での導入について検討を進める。	

第2期教育振興基本計画（R4～R7）の成果指標に対する達成状況

評価基準 101%以上：S 80～100%：A 60～79%：B 59%以下：C
--

I 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む（学校教育）

項目	目標（R7）	実績（R4）	達成度 （実績/目標）%	評価
全国学力・学習状況調査における全国平均100に対する相対	103	102.6	99.6%	A
※学校評価（豊かな心に関する2項目）における児童生徒の肯定的回答率（%）	97	94.9	97.8%	A
体力テストにおいてTスコア（偏差値）が満足できると判定された項目の割合（%）	70	45.1	64.4%	B

※学校評価（豊かな心に関する2項目）

○友達への思いやり（あなたは、友達を大切にしていますか。）

○道徳・心の教育の充実（あなたは、自他のいのちを大切にし、感謝の気持ちを持って生活していますか。）

II 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる（教育環境）

項目	目標（R7）	実績（R4）	達成度 （実績/目標）%	評価
※学校評価（家庭・地域連携に関する項目について）における保護者の肯定的回答率（%）	81	63.0	77.8%	B
※学校評価（家庭・地域連携に関する項目について）における児童生徒の肯定的回答率（%）	88	78.3	89.0%	A
※学校評価（学校の施設・設備に関する項目について）における保護者・児童生徒・教職員の肯定的回答率（%）	80	75.3	94.1%	A

※学校評価（家庭・地域連携に関する項目について：保護者）

○家庭や地域との連携・協力（学校は、市の地域や環境・施設・人材を教育活動にいかしていると思いますか。）

※学校評価（家庭・地域連携に関する項目について：子ども）

○家庭や地域との連携・協力（保護者や地域の人と行う活動は充実していますか。）

※学校評価（学校の施設・設備に関する項目について：保護者・児童生徒・教職員）

○施設設備の改善・充実（学校の施設・設備は整っていると思いますか。）

Ⅲ 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する（文化・芸術）

項目	目標（R 7）	実績（R 4）	達成度 （実績/目標）%	評価
文化・芸術に満足している人の割合（%）	39	40.8	104.6%	S
無形民俗文化財の指定数（件）	6	6	100.0%	A
文化財の指定件数（件）	49	49	100.0%	A
文化ホールの自主事業数（事業）	12	12	100.0%	A

Ⅳ 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる（生涯学習・青少年健全育成）

項目	目標（R 7）	実績（R 4）	達成度 （実績/目標）%	評価
生涯学習に関して満足している人の割合（%）	39	45.4	116.4%	S
図書館個人登録率（%）	31	23.3	75.1%	B
公民館の貸部屋の年間利用率（%）	45	37	82.2%	A

4 評価のまとめ

(1) 評価内訳

基本目標における主な取組毎の評価内訳は、以下のとおり。

※ 評価基準

- S…事業の目標が達成され、計画以上の効果が認められる。
- A…事業の目標が概ね達成され、効果が認められる。
- B…目標が一部達成できなかった。
- C…目標が未達成の事業であり、効果がほとんど認められない。

各事業の事業内容（令和4年度目標）に対し、進捗、達成度を総合的に判断し、S～Cの4段階の基準において自己評価しました。

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む [学校教育]

1 子どもたちの学ぶ力を育む	
(1) 個性や能力を伸ばす教育の推進	A
(2) 教職員研修（主任・層別等）の充実	A
(3) 指導法等の研修の充実	A
(4) 校内研修の支援	A
(5) 教育課題調査・研究・開発	A
(6) 教育研究団体支援事業	A
(7) 幼児教育の充実	A
(8) 読書活動推進のための学校図書館の整備	A
(9) 市立図書館との連携事業の開催	A
(10) 国際理解教育の推進	A
(11) 特別支援教育及び支援体制の充実	A
(12) 教育支援の推進	A
(13) キャリア教育の推進	B
2 子どもたちの豊かな心を育む	
(1) 道徳教育の充実	A
(2) 人権教育の推進	A
(3) 文化・芸術体験事業の充実	B
(4) 体験活動の充実	A
(5) 郷土愛を育む教育の推進	B
(6) 適応指導教室事業の推進	A
(7) 教育相談の充実	A

3 子どもたちの健やかな体を育む	
(1) 学校体育の充実	A
(2) 運動部活動の充実	A
(3) 健康教育の推進	B
(4) 学校保健会の活動の充実	B
(5) 健康診断の実施と事後措置の徹底	A
(6) 小児生活習慣病の予防	A
(7) 口腔衛生事業の推進	B
(8) 保健室機能の充実	A
(9) 学校環境衛生の充実と感染症対策の徹底	A
(10) 食に関する指導の推進	A
(11) 学校給食の充実	A

Ⅱ. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、
教育環境を充実させる [教育環境]

1 教育環境整備の充実	
(1) 安全な学校・幼稚園施設等の充実	A
(2) 就学援助の充実	A
(3) 修学旅行費補助事業	A
2 学校の適正規模・適正配置の推進	
(1) 学校の適正規模・適正配置の推進	A
3 情報化社会に対応した教育の推進	
(1) ICT環境の整備と活用	A
(2) 情報教育の推進	A
4 信頼される学校づくり	
(1) 安全教育の充実	A
(2) 児童生徒・園児の安全確保	A
(3) 通学路の安全確保	A
(4) 学校管理下における災害共済給付	A
(5) 学校情報公開と地域の連携	A
(6) 働き方改革の推進	A

Ⅲ. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する [文化・芸術]

1 文化・芸術活動の推進	
(1) 文化・芸術事業の充実	A
(2) 文化・芸術活動の支援	A
(3) 子どもたちの文化・芸術活動の充実	A
(4) 文化・芸術活動を支える人材育成の推進	A
2 文化財の保護・活用の推進	
(1) 指定文化財保護事業	A
(2) 文化財基礎調査事業	A
(3) 埋蔵文化財の保護事業	A
(4) 文化財の活用事業	A
(5) 印旛歴史民俗資料館運営事業	A
(6) 郷土資料の収集・保存・展示	A
3 市史編さん事業や地域史料の保存	
(1) 市史編さん事業	A
(2) 地域史料の保存及び活用	A
(3) 歴史公文書の収集、整理保管	A

Ⅳ. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる [生涯学習・青少年健全育成]

1 多様な学習機会の提供	
(1) 生涯学習情報の提供	A
(2) 市民アカデミーの充実	A
(3) 公民館・地域交流館主催事業の充実	B
(4) 生涯学習まちづくり出前講座の充実	A
(5) 産学官民の連携・協力	A
(6) 社会教育関係団体の支援	B
2 図書館サービスの充実	
(1) 図書館サービスの充実	A
(2) 子ども読書活動の推進	A

3 生涯学習施設の整備・充実	
(1) 生涯学習環境の整備・充実	A
4 家庭と地域の教育力向上と青少年の健全育成	
(1) 家庭教育学級の充実	A
(2) こども110番の家の推進	A
(3) 青少年健全育成大会の実施	A
(4) 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	A
(5) 放課後子ども教室の実施	A
(6) 二十歳を祝う会の実施	A

(2) 基本目標別評価

基本目標別の主な事業の評価数は以下のとおり

番号	基本目標	主 な 取組数	事業数	事業の評価数				
				S	A	B	C	—
I	知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む 〔学校教育〕	3	31	0	25	6	0	0
II	子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる 〔教育環境〕	4	12	0	12	0	0	0
III	市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する 〔文化・芸術〕	3	13	0	13	0	0	0
IV	市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる 〔生涯学習・青少年健全育成〕	4	15	0	13	2	0	0
計		14	71	0	63	8	0	0

(3) 学識経験者の知見の活用

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項には、事務事業の点検及び評価を実施するに当たっては、教育に関し学識経験を有する方の知見の活用を図ることが定められております。

このため、印西市教育委員会では事務事業が適切に実施されているか、点検評価委員2名から書面で意見をいただいております。

※敬称略

分野	氏名	役職
学校教育分野	井上 愛一郎	聖徳大学兼任講師
生涯学習分野	後藤 譲	元社会教育主事 元小学校長

《学校教育分野》 評価者：井上愛一郎委員

令和4年度学校教育分野に係る点検評価については、どの項目も「実績」「事業評価」「今後の施策の方向性」が的確に記載されており、多くの項目で事業評価が「A」と優れた成果を上げています。また、多くの事業が実施内容や方法等でコロナ前の水準に戻ってきているところが評価できます。なお、実績については、できる限り数値化し、年度比較が容易にできるようにすると良いと思います。

I. 知・徳・体の調和のとれた教育を推進し、生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 子どもたちの学ぶ力を育む

- (1) 子どもたちの個性や能力を伸ばすため、漢字級別認定テストや計算力認定テストの実施、生徒指導の機能を生かした「分かる授業」やICTを活用した授業の推進、学校支援ボランティアや学生ボランティアの活用など、様々な取組を展開していることが評価できます。ICTの活用については、児童生徒の学習意欲を高め、主体的・協同的な学習を促すとともに、変化の激しい社会に対応できる力を育むために、一層推進してほしいと思います。なお、ボランティア等の活用については、子どもたちが学校や家族以外の人と関わる機会を創出するとともに、学習に対する興味関心を高めることにつながることから、一層の充実を期待します。
- (2) 教職員の資質や指導力を高めるため、教職員を対象とした研修に教育委員会が積極的に関わっていることがうかがえます。学校教育の中心である「授業」が子どもたちにとって魅力的なものになるように、研修内容を見直し改善に努めてほしいと思います。
- (3) 教育課題の調査・研究・開発については、全国学力・学習状況調査の結果分析を行い指導法の改善に努めています。児童生徒一人一人の学力を高めることは学校の大きな使命ですので、結果分析に基づいた学校への指導・支援を引き続きお願いします。
- (4) 幼児教育については、園内研修の実施、家庭や関係課との連携、非常勤職員の配置などを通して充実に努めています。幼稚園に配置している補助教員や指導員については、幼児の安全安心を保障しそのニーズにきめ細かく対応するために必要な人材であることから、今後も配置を充実させてほしいと思います。
- (5) 読書活動推進のため、学校司書の配置、研修会や連絡会等の開催、図書システムの活用や市立図書館との連携など、様々な取組を行っています。このような取組により、子どもたちの読書量にどのような変化があったのか検証が必要かと思います。
- (6) ALTやコーディネーターの配置、小学校英語活動（英語科）の授業やイングリッシュキャンプの実施等を通して、国際理解教育の推進に努めています。具体的な成果指標として、例えば英語検定受験者数や級別取得者数の推移を見ていく必要もあるのではないのでしょうか。

- (7) 特別支援教育の推進については、個別指導計画や個別支援計画の作成、学習指導員や介助員の配置、相談活動やケース会議の実施、家庭や関係課・関係機関との連携など、様々な取組を通して児童生徒の教育的ニーズに対応した支援にあたっています。今後も引き続き児童生徒の社会的自立に向けた支援が充実することを期待します。
- (8) キャリア教育の推進については、職場体験学習などの体験的な活動がコロナ前のように行われるようになってきました。「学齢期がキャリア形成に重要な時期」という認識の下、多くの学校で体験的な学習が実施できることを期待します。

2 子どもたちの豊かな心を育む

- (1) 子どもたちの豊かな心を育むため、道徳（人権）教育や体験的な活動の実施、地域人材の活用、適応指導教室の運営や教育相談の実施など、様々な事業が展開されています。この中心である道徳の授業がさらに充実し、子どもたちが道徳的実践力を身につけることができるよう、教材の開発を含め学校への支援を引き続きお願いします。
- (2) 不登校やいじめなどの悩みを抱える児童生徒の居場所として、適応指導教室の存在は大きいものがあると考えます。今後も学校や家庭、関係機関との連携を密にし、当該児童生徒にとって必要な支援を行うことができるようお願いします。
- (3) LGBTQ に関する教育については、児童生徒がその知識や多様性を尊重する価値観を身につけることができるよう、外部人材の活用、発達段階に応じた教材の開発、教職員の研修など、教育委員会が主体となって取り組む必要がある課題と考えます。

3 子どもたちの健やかな体を育む

- (1) 学校体育や運動部活動の充実に向けて様々な事業が展開され、子どもたちの健やかな体を育むことに寄与しているものと思われまます。しかしながら、全国的に児童生徒の体力・運動能力の低下が指摘されていることから、課題を明確にして事業に反映させる必要があるものと考えます。
- (2) 学校保健事業や学校環境衛生事業については、医師会や薬剤師会、養護教諭や栄養教諭などと連携して計画的に実施され、児童生徒の健康維持や改善に大きく寄与しているものと考えます。健康診断の結果については、家庭との連携を密にして、治癒率を上げる工夫をお願いしたいと思ひます。
- (3) 食育については、栄養教諭（栄養士）と養護教諭・学級担任が連携した取組が展開されています。近年、偏った栄養摂取、朝食の欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化していることから、今後も継続した取組を期待します。なお、学校給食の残渣については、その傾向をデータ化し、残渣を減らす工夫をお願いしたいと思ひます。

II. 子どもたちが安全で安心できる生活を送り健やかに成長できるよう、教育環境を充実させる〔教育環境〕

1 教育環境整備の充実

- (1) 令和4年度も千葉ニュータウン地区における児童生徒数の急増に対応するため、いくつかの小中学校で校舎の増築工事が行われました。また、学校給食センターの新築工事もスタートしました。今後も開発状況や児童生徒数の推移を注視し、計画的な対応をお願いします。
- (2) ICT環境整備のため、モニターの普通教室及び特別教室への設置が行われました。日常的に映像教材を活用したり、教材の提示が容易になったり、子どもたちの発表の場面で活用したりと、学習効果が期待できます。モニターの活用事例については全市で共有し、子どもたちの学力の向上につながることを期待します。
- (3) 就学援助に係る事業については、関係児童生徒及び家庭の大きな助けになっていると思います。今後も必要な児童生徒が制度を活用できるよう、学校との連携を密にしてほしいと思います。

2 学校の適正規模・適正配置の推進

- (1) 小中学校の小規模化及び大規模化への対応については、説明会を開催し、保護者や地域の理解を得ながら事業を進めています。今後も「児童生徒にとって望ましい教育環境を整備すること」を最優先に対応をお願いしたいと思います。

3 情報化社会に対応した教育の推進

- (1) 児童生徒1人1台の学習用端末が整備され、授業等で活用されています。一番の課題は教職員間のICT活用指導力の差と言われています。教職員による差が子どもたちへの不利益にならないよう、研修会の開催、ICT支援員の設置や外部人材の支援など、教職員や学校への指導・支援を引き続きお願いしたいと思います。

4 信頼される学校づくり

- (1) 学校安全については、安全教育、安全管理、組織活動等の観点から、様々な事業が展開されています。まずは学校管理下の事故や交通事故を減らすことを目標に、事業の見直し及び学校への指導をお願いしたいと思います。
- (2) 各学校がHPを活用して積極的に学校情報を発信・公開していることがうかがえます。情報発信のツールとして、HPはもちろんブログやSNS、YouTube等も活用し、タイムリーなそしてより閲覧してもらえる情報発信を目指して、引き続き学校の支援をお願いしたいと思います。
- (3) 地域人材の活用については、読み聞かせやキャリア教育等で活用が図られています。「社会に開かれた教育課程」実現の観点からも、さまざまな領域で活用が進むことを期待します。
- (4) 働き方改革の推進に向けて、ICカードの導入、校務システムの活用、オンライン会議の実施に取り組んでいます。抜本的な改革のため、県教育委員会と連携した取組を期待します。

《生涯学習分野》 評価者：後藤 譲委員

どの項目についても令和4年度の実績についての的確な「施策評価」「評価理由」「今後の課題」が記されています。

令和4年度は、各事業の実施状況を見ても昨年に引き続きウィズコロナの中、大変に厳しい1年であったと思います。コロナ禍で実施できない事業がある中、A評価が20項目から26項目と多く認められた事は担当者の創意工夫と努力の結果であると思います。

Ⅲ. 市民が様々な文化や芸術に触れることができるとともに、先人の残した文化遺産の価値や意義を次世代に適切に継承する [文化・芸術]

1 文化・芸術活動の推進

(1) 文化・芸術事業の充実

日本の様々な文化・芸術に触れる機会を市民に与える事が文化ホールの存在価値であると思います。事業広報の手段や方法について拡充・検討を行い、文化ホールの役割を果たすべく事業の継続をお願いします。

(2) 文化・芸術事業の支援

オンラインでの市民文化祭の実施は、大変な苦労があったことと思いますが、多くの方が喜ばれ、楽しんだことと思います。今後も、来場者のある市民文化祭とオンラインでの市民文化祭の併用が必要になると思いますのでよろしくをお願いします。

(3) 子どもたちの文化・芸術活動の充実

文化芸術体験の体験会の公募を行い、けん玉の体験会が実施できよかったと思います。学校教育部門との連携も視野に入れての取り組みをお願いします。

(4) 文化・芸術活動を支える人材育成の推進

コロナ禍の中、自主的な文化・芸術活動の積極的支援ができよかったと思います。

2 文化財の保護・活用の推進

(1) 指定文化財保護事業

開発が進む中で指定文化財の調査・保護していくことは大変な事ですが、年に1～2回の環境保全調査は必要と思われます。

文化財所有者に対しての指導・助言や補助金の交付は、市の財産でもある文化財を後世に残すためにも必要な事です。

(2) 文化財基礎調査事業

後世に仏像や石造物の形を変えずに残すことは大切なことです。作られた当時の人の思いや願いを知る上で貴重な歴史資料だと思えます。

(3) 埋蔵文化財の保護事業

調査、保護、活用等については、計画通りに実施されています。調査結果については、多くの市民に伝わるようお願いします。

史跡等の整備管理については、難しい面も多くあると思いますが、十分な取り組みを望んでいます。道作古墳群見学会のように、NPO法人小林住みよいまちづくり会と協働して史跡等の見回りをし、全ての史跡が見学できるようにお願いします。

(4) 文化財の活用事業

活用できる文化財は、活用してこそ価値があると思います。活用の内容や方法については、今後も検討し、市民によく伝わるようお願いします。

無形民族文化財映像記録をパンフレットや伝統芸能フェスティバルのダイジェスト動画を通して地域での伝承や教育に活用した事は、素晴らしい取り組みの一つです。

道作古墳の発掘成果の周知は、今後も続けて欲しい事業です。

(5) 印旛歴史民族資料館運営事業

印旛歴史民族資料館には、素晴らしい資料が数多く保管されています。

資料館にある昔の民具等は、見学するだけでなく使用することで、保護する事の大切さを学ぶのではないかと思います。常設展示に多くの見学者が来ています。

資料館講座「印西の行商」や体験講座「埴輪をつくろう」「勾玉づくり」「正月飾りづくり」など後世に伝えたい資料ですので、今後も展示の更新や見学しやすい環境、興味を持って体験できるコーナーの設置等を続けて欲しいと思います。

(6) 郷土資料の収集・保存・展示

木下交流の杜歴史資料センターへの資料の集約化は、保全のために必要なことです。引き続き取り組みをお願いします。

3 市史編さん事業や地域史料の保存

(1) 市史編さん事業

この事業については、企画から実施まで丁寧に行われています。事業内容や実績からみて地道に事業を推進していると思います。

(2) 地域史料の保存及び活用

古文書等の調査、収集、整理、保存については、史料の活用に向けて細かな仕事で、苦労は多いと思いますが、継続して行って頂きたいと思います。

(3) 歴史公文書の収集、整理保管

整理・保管は大変な作業であると思いますが、引き続き細かく行って頂きたいと思います。

IV. 市民が生涯を通して学ぶことができるとともに、地域で子どもたちを守り育てる [生涯学習・青少年健全育成]

1 多様な学習機会の提供

(1) 生涯学習情報の提供

発行部数 300 部、また発行を昨年度から 8 月から 4 月に変更したことにより、多くの活用が見られたと思います。準備等大変だと思いますが今後も 4 月の発行を継

続してほしいと思います。

今年度発行の「生涯学習ガイド」も市民の要望に応え、幅広い情報を基に丁寧に作成されており、どの年代の人にとっても読みやすく利用しやすいと思われます。市のホームページへの掲載もアクセス数が昨年度より伸び 2,000 件を超え、よい取り組みと考えます。

(2) 市民アカデミーの充実

学則及び学習プログラムの見直しを図り、ウィズコロナの中で実施できたことはよかったと思います。また、アカデミー生の自主勉強の支援を引き続き行えたこともよい取り組みだと思えます。

(3) 公民館・地域交流館主催事業の充実

ウィズコロナの中でもそれぞれの館が工夫して事業を進めていることがわかります。参加人数もおおむね昨年度より増加しています。市民の要望には応えられたのではないかと思います。

地域住民のニーズを得るためにアンケートを取ることや他市町の情報を得ることは今後も必要なことと思えます。減っている講座は、昨年度より講座数が少なかったことが原因だと思えます。集客数を見ながら講座の変更や定員数の調整を考えていくべきと考えます。

(4) 生涯学習まちづくり出前講座の充実

ウィズコロナの中、ホームページや広報で出前講座の周知をした結果、昨年度より年間 23 件から 28 件、419 人から 485 人と増加しています。新型コロナウイルス感染症の流行が収まることで、事業の認知度の高まりとともに利用が伸びてきています。また、より専門的な知識を得たいと考える市民も増えてくると思えますので、研究・調査をして講師として出向くことは大変なことと思えますが、継続と充実を願っています。

(5) 産学官民の連携・協力

順天堂大学(順天堂大学・印西市・酒々井町共催)の親子スポーツ教室を年 4 回実施しました。昨年度 15 組から 23 組 68 人と参加者も増加しました。専門的分野の知識を得たい、活動したいという市民の声が増えてくると思えます。今後も大学や企業の協力を求めていくことが必要と思えます。

(6) 社会教育関係団体の支援

新型コロナウイルス感染症の影響により、個人・団体へのネットワーク化の推進は、中止しました。積極的に活動している社会教育団体への支援は、今後も必要です。

実施できませんでしたが、市民アカデミー卒業生が市民団体を立ち上げていることは、素晴らしい事と思えます。更に広がりを見せるように支援をして頂きたいと思えます。

2 図書館サービスの充実

(1) 図書館サービスの充実

ウィズコロナの中、延べ 25 万人近くの利用者がいることは市民の図書館利用への強い思いの表れであり、約 81 万点の資料貸し出しを行っていることは図書資料の充

実と職員の努力の結果と思います。7月から開始した電子書籍サービスでは、昨年度350点から今年度642点の資料の提供があり、サービスの充実が見られます。

生涯学習や地域活性化の拠点機能を担うのが文化施設です。身近な居心地のよい空間として、今後も魅力ある図書館、利用したくなる図書館への努力をお願いします。

(2) 子ども読書活動の推進

ウィズコロナの中、図書館での読み聞かせに参加する人数がなかなか伸びない状況ですが、全体的な傾向だと思われます。その中で、通年で行うおはなし会昨年度350名から807名へ、夏のおはなし会昨年度14名(印旛)から40名(大森,印旛)、クリスマス会昨年度121名(大森,小林,小倉台,本埜)から75名(大森,小倉台,本埜)の参加者がありました。学校での読み聞かせも同様の事と思いますが、学校で実施している保護者が行う読み聞かせは、素晴らしい取り組みと考えます。ウィズコロナでの活動ですので、感染対策を行ったうえ、実施していただくようお願いいたします。

小・中学校の職場体験、職業体験、出前講座、こどもの読書週間事業など、図書館を身近に感じるようになる良い企画と思います。継続をお願いします。

3 生涯学習施設の整備・充実

(1) 生涯学習施設の整備・充実

昨年度はふれあい文化館大規模改修工事を行い、今年度は小林コミュニティプラザ保全改修工事を実施し、私たち市民にとって喜ばしい事でした。今後も安全面、使いやすさを考え、継続的・計画的に公民館、地域交流館、図書館の改修を進めていくようお願いします。

計画的に「改修」「廃止」「新築」「合併新築」「他施設への移転」等考えることも必要になってくると思います。

4 家庭と地域の教育力向上と青少年健全育成

(1) 家庭教育学級の充実

時代を超えて重要な事業ですので、ウィズコロナの中であっても33学級が開催されたことはよかったと思います。また、昨年度より行われた家庭教育学級指導員の配置によって、今まで以上にきめ細やかな指導や助言が可能になって行くと思います。

(2) こども110番の家の推進

ウィズコロナの中であっても、周知を図るための活動は必要な事であったと思います。破損したり、汚れたりしているステッカーも目にしますので、引き続き交換も必要です。印西市の子どもの事故・事件は少ないのは、取り組みの効果の現れだと思えます。また、不測の事態に備え保険に加入することは、必要な取り組みです。

(3) 青少年健全育成大会の実施

ウィズコロナの中、久しぶりの開催にもかかわらず、約200名の参加が有り、実施できたことは良かったと思います。

(4) 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実

地域のコミュニティ作りの一つの方法としては、有効な事業と考えます。

ウィズコロナの中での活動ですので、くれぐれも注意をして頂くようお願いします。

(5) 放課後子ども教室の実施

昨年度から滝野小学校と本埜小学校の2カ所で実施できたことはよかったです。

ウィズコロナの中での活動ですので、くれぐれも注意をして頂くようお願いします。

(6) 二十歳を祝う会の実施

昨年度より新型コロナウイルス感染予防の観点から、2部制で実施したことは、賢明な処置であったと思います。